

第 2 回

あえて言う「読むより、描け！」

入門編・論説文2 構造をつかみ、図にして解決

(氏名)

目標：文章構造図をしっかりと定着
難しい文を図にして理解する

おしめえをこれっぽか
読んだだけでできた！
けなるいらあ。

最後をたったこれだけ読んだだけで
できた。うらやましいですよ。

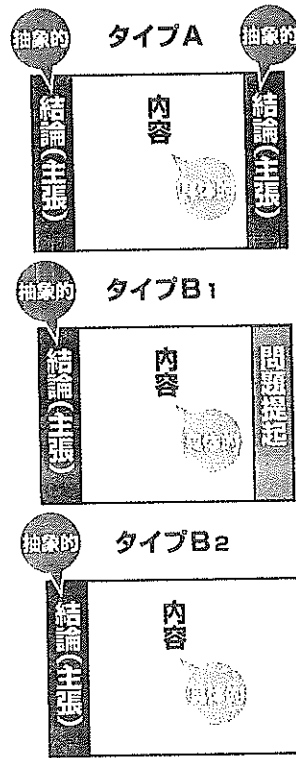
——長野県の猿左衛門さん



読解 究極

↑ エライのは肉まん、あんまん？

復習です。もう一度、次の図を見てください。思い出しましたね。



では、理解を完全にするために、作文をしましょう。心配いりません。とてもかんたんです。まず例を見せましょう。

タイトルは「太平洋と大西洋のどちらがえらい」です。

段落構成は次のようになります。

- ① 問題提起
- ② 具体例を二つ
- ③ 結論

どちらがえらいと思いますか？ では、「太平洋」がえらい、という例文です。なお、文章の中身は、事実とは何の関係ありません。

■ 作例 太平洋と大西洋のどちらがえらい

① 太平洋と大西洋ではどちらがえらいのだろうか。私の意見は次のとおりだ。

② 第一に、太平洋は広い。世界一広い海である。広いということはすばらしいことなのだ。第二に、太平洋は深い。世界で一番深い場所は日本からそう遠くないところである。深いということもすばらしい。

③ 以上の理由から、太平洋は大西洋よりえらい、とする。

ばかばかしい文章です。でも、これが論説文（以後、この本では、説明的文章を、特別な例外を除いて「論説文」と呼ぶことにします）の基本です。もう一度いいますが、これからの練習では、みなさんが書いたことが事実として正しいかどうかは問いません。正しい構造の文章を書きさえすればよいのです。

では、例題。タイトルは「肉まんとあんまんはどちらがえらい」です。段落構成は次のとおり。「太平洋」と同じです。

- ① 問題提起
- ② 具体例を二つ
- ③ 結論

困ったら、「太平洋」の例文を見てかまいません。また、理由は無理やりこじつけてください。では、書きましょう。

■例題 肉まんとおまんぼどちらがえらい
① 問題提起

② 具体例を二つ

③ 結論

われ、よう見たらピザまんやんけ

ギクッ……

書きましたか。これであなとも一人前の論説文作者（かもしれないせん……）。では、読解にもどります。次は、難しい文章に挑戦です。確認です。結論をつかもうと思ったら、真っ先にどの段落に目を通しますか？ 次の空欄に書いてください。

「」の段落

いいですね？ 「」の段落です。その次は、最初の段落です。「タイトル」も忘れずに。

ではもう一つ確認。最後の段落の中では、まずどこを読めばいいですか？ 書いてください。

「」の文

そう、「」の文です。次はやはり、その段落の最初の文です。では、その文が、どんな感じの文だったら、「どうやらこれが結論（主張）らしい」と考えられますか？

「」的な文

いいですね？

「一」的な文——漢字で書けるようにしてください



文明は文化が大好物なの？

では、東京都立戸山高校の入試問題（2009年度）。ものすごく長くて難しい文章です。その「最後の段落」だけ抜き出します。どうぞ。

■例題 東京都立戸山高校 2009年度

科学技術と市場経済に支配されたグローバル文明の潜勢力は、巨大である。そのため、その津波のような勢いの前に、諸文化の差異は薄められ、その多様性と独自性は失われていく。そして、一様化され、画一化された単一な文明が形成される。二十世紀以来のことではあるが、二十一世紀は、均一化された文明がこの地球を包摂することにたなるであろう。世界の合一化とはそのことにほかならない。こうして、全地球的に覆い尽くされた巨大な物質文明の中に、今までのあらゆる文化が呑み込まれていくことになる。

※1表に現れない潜在的な力 ※2つつみこむ・とりこむ

（小林道憲「不安な時代、そして文明の衰退」による）

——どうですか、難しいですね。でも大丈夫。いっしょに読み進めましょう。

まず、一番大切なのはどこか。第一の候補は「」の文、でしたね。思い出してください。

はい「」の文です。もし、最後の文があまりそれらしくなかったら、その前の文、場合によってはさらにその前、とさかのぼっていけばよいのです。

では、最後の文が「それらしい」かどうかは「」的であることが、目安になるんですよ。何的ですか？

はい「」的ですね。具体的なことが詳しく書かれている部分は、たいてい重要な箇所ではありません。あくまでも「例」に過ぎないことがほとんどです。

では、最後の文を読みましょう。

こうして、全地球的に覆い尽くされた巨大な物質文明の中に、今までのあらゆる文化が呑み込まれていくことになる。

難しい。難しいと思った場合のいい方法を教えましょう。

入試では、難しい文を完全に理解する必要はない

本当です。文章を全部、きちんと理解する必要はありません。無理をすると、時間がかかり、混乱し、かえって大変です。

次の文を読んでください。「私はベナプソを許せない」——ベナプソが何なのかわかりませんね（書いている私にもわかりません）。でも、ベナプソを許せないことはわかります。「ベナプソ」が「Schwanensee（白鳥の湖）」でも「阿弔利爲」でも何でもかまいません。そこで、さっきの「最後の文」をもう一回見てください。

「抽象的」ですか？「抽象的」ですね。どうやらここが結論（主張）のような感じはします。タイトルと比べましょう。タイトルは「不安な時代、そして文明の衰退」。「文明」が共通しています。そして、なんとなくあまり気分のいい話ではなさそうなことも。

そこで、この最後の文を「ていねいに」読みます。

「ていねいに」読むというのは、言葉を一つ一つきちんと区切り、意味をつかんで読む、ということなんです。ただゆっくり読んでも意味はありません。そこで、とても重要な「読み方」を二つ教えます。

重要！

- ① 述語から↓主語↓関連する語にマーク
- ② 文を図にかき直す

この二つを守ってください。では、はじめます。まず「述語」を見つけ、マークしてください。

述語は文の一番大切な部品です。そして「文の最後」が、ほぼ定位置です。なお、文法的に厳密な意味での「述語」というよりも「どうした・である」の部分「述部」にマークする、ということですよ——何を意味しているかが大切なのです。

こうして、全地球的に覆い尽くされた巨大な物質文明の中に、今までのあらゆる文化が呑み込まれていくことになる。

みつかりましたね。

ですね。

すると、当然「何が？」「何に？」という疑問が浮かびます。これで主語や（英語でいう）目的語をさがすことになりますね。では、「何が」「何に」「呑み込まれていく」を書いてください。

「**が**」
「**に**」
呑み込まれていく

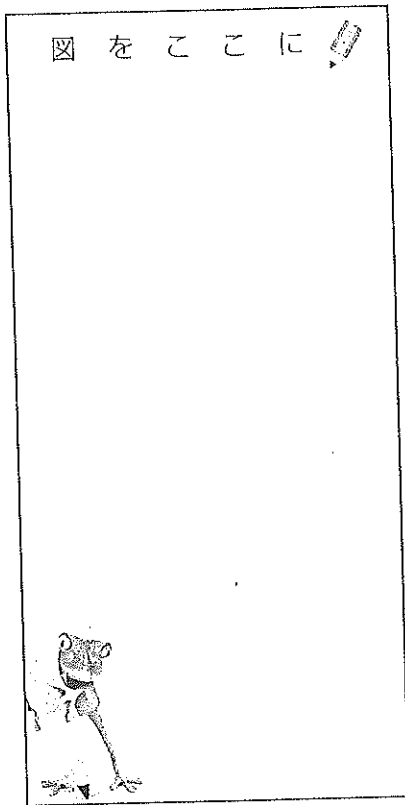
書けましたか？

「 「が」 「に呑み込まれていく

抽象的でわかりにくいですね。第一、文化が文明に呑み込まれるなどという事件が、現実には起こるわけはありません。たとえば、具体的ではありません。だから、結論（主張）らしいわけです。

さて、次のステップです。このような抽象的なものは、図にしてみせます。難しく考える必要はありません。文明が文化を呑み込む様子を図にします。そうするといろいろなことが、一目でわかります。

では、描いてください。



どんな図でしょうか。正解はありませんがたとえばこんな感じでしょうか。

さあ、この難しい文章も、何が書かれているのかといえ、この図であらわした、これだけのことなのです。

では、最後の文にもう一度注目。

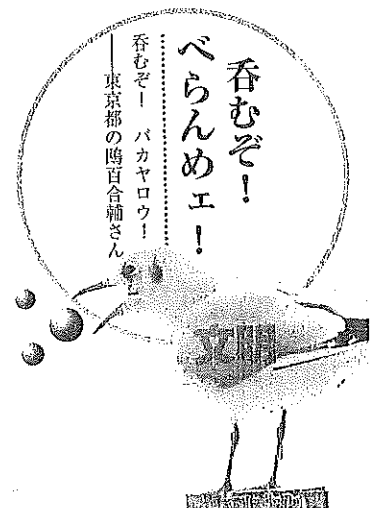
こうして、全地球的に覆い尽くされた巨大な物質文明の中に、今までのあらゆる文化が呑み込まれていくことになる。

右の例のように、必ずマークしてくださいね。

文のはじめに「こうして」とあります。「これ」「それ」「あれ」「どれ」をまとめて「こそあど言葉」といいます。「指示語」。知ってますね。指示語が指示する「本体」はどこにあるのか、書いてください。

指示語の指示するものは「 「」にある

「 「」など、意味があつていればよろしい。これも読解の大切なポイントです。おほえておきましょう。



重要!

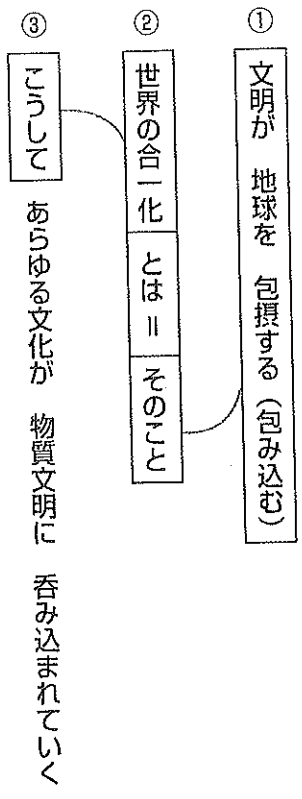
指示語の指示するものは「」にある

最後の文の先頭の「このように」を確かめるためにすぐ前の文を読みます。なお、最後から二番目の文にも指示語「そのこと」があるので、もうひとつ前までセットにし、文に番号をつけます。

- ① 二十世紀以来のことではあるが、二十一世紀は、均一化された文明がこの地球を包摂することになるであろう。
- ② 世界の合一化とはそのことにほかならない。
- ③ こうして、全地球的に覆い尽くされた巨大な物質文明の中に、今までのあらゆる文化が呑み込まれていくことになる。

ではそれぞれの文の内容を、「主語・述語」を中心に、順番に並べます（文を区切ってあります）。

- ① 文明が 地球を 包摂する (包み込む)
 - ② 世界の 合一化とは そのこと
 - ③ こうして あらゆる文化が 物質文明に 呑み込まれていく
- 次に、指示語を、直前にある「本体」と結んでみましょう。



この図を式で表すと次のようになります。

文明が地球を包み込む || 世界の合一化
|| 文化が文明に呑まれる

気づきましたか？
要するに同じことを表現を変えてくり返しているだけなのです。では、思い出してください。くり返されている内容は、どんなものでしたか？ 書いてください。

くり返される内容 || 重要
|| 筆者の「」の可能性が大きい

書けましたか？ はい 「」ですね。

これで、この文章が何を言おうとしているか、よくわからないけど、はつきりわかりましたね（笑）。

文明が文化を呑み込んで、世界をひとつにしてしまう、というのです。筆者はそれをいいことだといっているように感じますか？

感じませんね。あまりよいこととは考えていないようです。

さて、ダメ押しをします。ページを戻して段落を全部読んでください。

どうでしたか？

どこもかしこも同じことが書いてあるように感じませんでしたか？ そのとおりです。「くだいなあ」と思った人はいますか？
あなたは正しい。

論説文というものは次のようなものなのです。

重要!

論説文 II 結論（主張）を、例を挙げ、表現を変えて繰り返し、読み手を説得する文章

いきなり「文化が文明に呑まれてしまう」といわれて「うん、確かに」と納得する人はいませんよね。だから、くだいのです。

さあ、これで「ていねいに読む」はいったんおしまいです。お疲れさまでした。いよいよ問題を解きます。この文章による入試問題は、全部で5問でした。そのうち、この段落の内容とのかかわりが薄い問1と、作文問題の問4をのぞく3問を、一気に解いてしまいます。

なんくるないさー

どうかなるさ

— 沖縄県のシサ男さん



3

文明のよくな勢いで解きまくれ!

では、一番難しい最後の設問、問5からどうぞ。

問5 筆者が本文で述べている内容と一致するものを、次のうちから一つ選びなさい。

- ア 現代では、地域に根差す文化的な差異や多様性が、個性的な生き方をきわだたせている。
- イ 現代では、画一化、標準化の大きな力によって、諸文化の独自性や多様性が失われている。
- ウ 現代では、空間が均質化したとはいえ、時間については、地域の伝統的な暦が日常生活を支配している。
- エ 現代では、伝統的な世界観や生活様式が、巨大な力となって世界標準の形成をはばんでいる。

要するに、これまで何回も確認してきたことと一番近いものはどれか、という質問です。よく読んで書いてください。

問5 解答

」

どうですか? 「これ……でも、わかりやすすぎないかな……何かひっかけが……」と思った人はいませんか? 何もありません。読んだとおり「」です。重要なところをていねいに(精密に)読めば、答えは必ず姿を現します。では、次。問3にもどります。

問3 — 傍線部③「このことは、例えば、言語について

- も言える。」とあるが、「言語について」も、どのようなことが言えるというのか、その説明として最も適切なものを、次のうちから選びなさい。
- ア 一様性が多様性を浸食する。
- イ 一様性の上に多様性がある。
- ウ 多様性が一様性を抑止する。
- エ 多様性が均質性を統一する。

「— 傍線部③はどこに?」本文のその部分はこの本にはありません。でも、すでにしっかり読み込んだ「最終段落」の内容と照らし合わせて、もっとも「よくあてはまるもの」を探せばそれが正解です。なぜなら「どこも同じことが書いてある」から。どうぞ。

問3 解答

」

選択肢の言葉の意味は難しいですね。でも、関係ありません。本文をよく読んでください。「二様」が何で「多様」が何かわかればもうおしまいです。

はい、「二様」文明「多様」文化ですね。これがわかれば解答は「一」以外、選べないはずです。困ったことに、本文も読まずに難関高校の難問を解決してしまいました(笑)。では、もう一つ。

問2 ——傍線部②「現代では、この一様化した文明的空間

間が、地球の表面を覆っている。」とあるが、「一様化した文明的空間」と対比されることとして最も適切なのはどれか、次のうちから選びなさい。

- ア 画一性を持った歴史的空間
- イ 個別性を持った宗教的空間
- ウ 記号性を持った言語的空間
- エ 多様性を持った文化的空間

これも何やらめんどろな言葉がならんでいます。まず、設問をしっかり読みましょう。

何が問われているのですか。質問に正しく答えるためには「何を答えればいいのか」をただしく理解することが第一歩であり、また、

ほぼすべてといってもいいくらいです。では、「設問の読解」です。答えるべきことは何か？ 設問の文にマークしてください。

問2 ——傍線部③「現代では、この一様化した文明的空間

間が、地球の表面を覆っている。」とあるが、「一様化した文明的空間」と対比されることとして最も適切なのはどれか、次のうちから選びなさい。

マークの例は「一様化した文明的空間と対比されること」です。だいたいここにマークできていれば、合格。「文明と対比されるもの」を答えろ、といっているわけです。「対比」これはとても大切な言葉です。論説文でも小説でも何回も何回も出ますから。ほとんどの文章は、何かと何かを対比させて書かれています。「日本と外国」「現代と昔」「都会と田舎」「仲間と孤独」「騒音と静寂」「自然と人工」「愛情と憎しみ」——どうですか、見たことがあるはずですよ。

この文章では「文明と」ですね。では解答をどうぞ。

問2 解答 1

秘密兵器



入試でのみなさんの最大の敵は、「時間」です。入試が、日ごろの学習と違う点は、制限時間があるということなのです。学校でのテストで、残り時間が少なくなって、あせってミスをした、という経験をしたことがない人は少ないはず。

そこで、限られた時間との戦いに勝つための、究極読解オススメの秘密兵器を紹介しましょう。それは《受験票》——。「はあ？」という声が聞こえそうですが、最後まで読んでください。

正しくは《受験票を使った字数カウンター》です。

■字数カウンター■

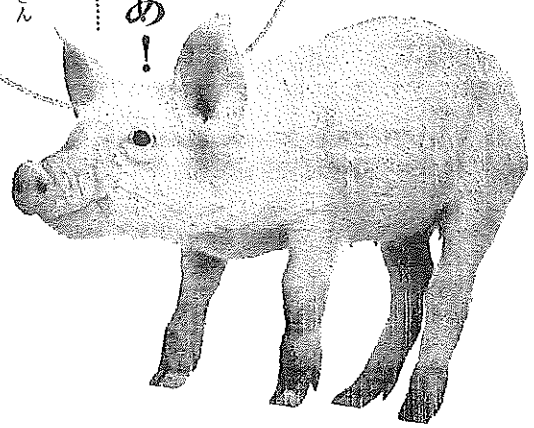
たとえば八十字くらいの記述式解答の問題。素材は本文中にあります。文字数を数えるのが大変です。ちょっと目を離すと「あれ、何字だった？」となります。このとき、受験票の「すみ」を使うのです。受験票を本文のどこかにあてがいます。そして、五字・十字・十五字……と、だいたい五字ごとに目盛りを書き込みます。これで《字数カウンター》のできあがり。

キーワードを探しながら、受験票を本文の横にそえ、字数を数えます。これで、速さと正確さが確実に向上します。

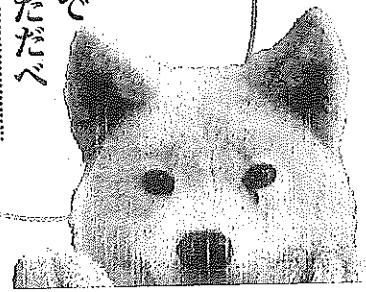
まずは試し、練習しましょう。入試の勝敗を受験票が決める、というのも悪くないはず。

合格のその日、この受験票が、二重の意味であなたの宝ものになるはずですよ。

おやつときさあ！
お疲れさまー
——鹿児島県の豚児さん



まんず、
じよさねで
どでんしたただべ
まあ、かんたんで、
びつくりしたでしょ
——秋田県の犬丸さん



図にまでしましたからね。思い出せますね。文明と対比されているものは文化です。そうすると正解はどうしても「」になってしまいます。「一様性（文明）」と多様性（文化）」を比較したことも、強力な手がかりになるでしょう。

かんたんに終わってしまいましたね。お疲れさまでした。

では、次のページで最後の「締め」に進みます。ここまでのポイントをまとめます。すべて・完全に理解し、おぼえてください。

重要!

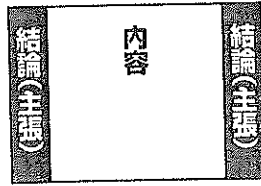
論説文の構造

結論（主張） 抽象的な内容

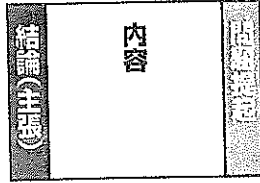
+

内容（具体例など） 具体的なこと

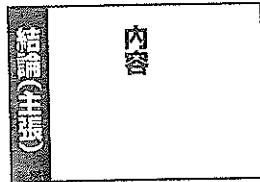
タイプA



タイプB1



タイプB2



※特に多いのは タイプB1

※段落の構造も、同じようなパターンである

重要!

解法の手順

①結論（主張）をつかむ

1 最後の段落の最後の文からチェック

2 抽象的な文・くり返される語句・「つまり」
などが目印

3 述語↓主語↓それらに関連する語の順に
マークし、分析する

②設問の文を精密に読む（次回以降）

1 「何」を答えるのか、の部分にマークする

2 「どう」答えるのか、の部分にマークする

③本文から解答のキーワードを探索（次回以降）

これだけ。

なまらだいじだべさ！

これだけ。とても大事だよ！

—北海道の狐次郎さん

